

21世紀教育と『フォーラム』の役割

21世紀教育センター長 矢島 忠夫

人は、なぜ、学習という活動をするのか。なぜ、教育という活動をするのか。

個々の人が永遠には生きないから、先立つ世代の生きる知恵と技術の多くが、自然の生きものとしてそのまま後続する世代に伝えられるわけではないから、後続する世代は、先立つ世代の生きる知恵と技術の多くをあらためて学びなおすことなしには、先立つ世代が生きた環境のなかで同じように生きることさえ困難であるから…。

そんな当たり前のことを思っている。

しかし、先立つ世代と後続する世代の非連続を克服しようとするこの活動も、後続する世代のあらためて学びなおす活動なしにはありえないかぎり、完全には成功しないはずである。そして、まさにそのことが、先立つ世代の生きる知恵と技術だけにしがみついていたなら危機的状況に追い込まれてしまったかもしれない環境の変化に、後続する世代が生き生きと柔軟に立ち向かっていくことを可能にしてきたのだろう。

こんな当たり前のことから、すでに、どのように学び、それを支援することが望ましいかについて、一つの示唆が与えられると思う。それは、創造的であること、連続性の幹に非連続の華を開かせることであるだろう。

21世紀教育は、「21世紀を生きるうえで必要となる基本的な力を養う」ことを目標にしている。上記に引きつけて言えば、21世紀という時代において、創造的であること、連続性の幹に非連続の華を開かせる力を目指すことである。期待がどちらかへ傾きすぎると、他の側面に向けられた努力の意味を感じられなくなることもあるだろう。しかし、連続性の幹が非連続の華によって生きるように、非連続の華は連続性の幹に開くのだと思っている。

たしかに、21世紀教育が目標として掲げていることは、21世紀教育という枠のなかだけで実現できるはずもなく、専門教育、ひいては生涯をかけて目指されるべきことであるだろう。その前提に立ちながら、大学における教養教育という視点から、学生が、何を、どのように学ぶことが望ましいのか、教職員が、それをどのように支援すれば効果的でありうるのかについて、わたしたち教職員がみずから検証し提案し合う「場」としてこの『フォーラム』が確かな役割を果たすことを願っている。